



旭自治会 だより

令和5年6月1日 第63号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: kameoka-asahi.com

早くも梅雨入り宣言

旭町の水田に水が湛えられ、きれいに早苗が植わりお米の季節が始まりました。農繁期忙しい田植えの作業が一段落し、皆様のご奮闘に敬意を表させていただきます。秋の収穫まで数多くの農作業がまだまだ待ち受けていますので、お体大切に、大豊作をお祈りいたします。

さて、気象庁は早くも近畿地方が5月29日「梅雨入りした模様」と発表しました。これは例年に比べて1週間も早く、5月中の梅雨入りは10年ぶりだそうです。毎年のことですが、何か気持ちが落ち込むような季節のイメージがあります。年間を通じても湿度の高い日本ですがこの時期特に雨が多く、グレーの空模様はあまり良い季節とは表現されません。それで、この時期が過ぎると、「梅雨が終わる」と言わずに「梅雨が明ける」と表現するのもかも知れません。しかしながら、農業においては水稲も各種野菜もこの時の十分な雨でしっかりと生育していく大切な季節なのです。

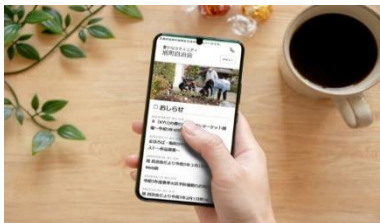
きょうから6月「水無月」です、梅雨入りし雨の多い月なのになぜ、水の無い月なの？と思って111いましたが、調べましたら、水の無い月ではなくて「田水之月」(たみのつき)ということで、田に水をいっぱい湛える月のことらしいです。

旭町の水田に早苗が根付き一面緑の絨毯のようになるこれからの季節、私は一年で最も好きな景色の一つです。以前から町民の皆様にご案内をしております、丹波NEW(ニュー)風土記協議会主催のフォトコンテストの募集が6月1日から受付となります。この川東地域の様々な風景や催しの写真を自由に応募してください。旭町の一年様々な景色がありました、冬の異常な低温の日々や豪雪が二度もあったこと、春の桜は例年になく美しく、また気温の低さで長く咲いて楽しめたこと、この半年でも様々な季節の景色がありました。旭町の多くのカメラマンの皆様素晴らしい作品お待ちしております。

6月、梅雨の嫌な時期のようではありますが、貴重な季節の1ページとして楽しんで過ごしたいと思います。雨降って何とか何とか、嫌なことも必要なこと、少し我慢の時間が過ぎると、雨が止むと言わず「雨が上がる」といい、「梅雨も明けて」開放的な夏を楽しみにしましょう。

旭町自治会長 吉川 肇





令和4年度版 旭町自治会ホームページ投稿

記事ベスト3

2022年4月～2023年3月までの期間に読まれた旭町自治会ホームページに関する投稿をランキング形式でベスト3を紹介します。

第1位 コウノトリ5年振りに飛来 亀岡市旭町上池にて

アクセス数388件、2019年の9月に公開された記事ですが、コウノトリがやってくると、上池の前に他府県ナンバーの車が並ぶのを見ます。旭町という町を知ってもらう、きっかけをコウノトリが運んできてくれたということでしょうか。



第2位 令和3年度敬老の日 亀岡市長からのお祝いメッセージ アクセス数316件

亀岡市長からの敬老の日のメッセージを紹介した記事です。町内からではなく、亀岡市内からのアクセスもたくさんあったと思われます。



第3位 亀岡市消防団 旭分団 訓練開始 アクセス数255件

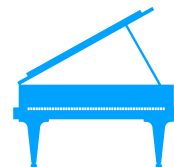
2022/05/17に投稿された、消防団旭分団の皆さんの活動を紹介する記事です。旭町のためにがんばっている方々には、本当に感謝です。

多くの方に旭町を知ってもらっていることが分かります。これから旭町の魅力を公開できればと思います。遠くは新潟県の方からホームページの問い合わせがあり、また奈良市からサポートカーの研修希望の問い合わせがあるなど、全国に旭町の取組が広まっています。嬉しい事です。

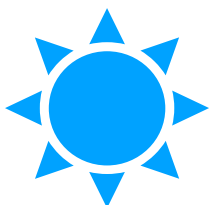
第4位 旭町「いちご農園」京都新聞紹介 第5位 (株)ニッシン 紹介 第6位 令和3年度 新年自治会長挨拶 第7位 山階区公民館竣工式 第8位 機械化・IT化が進む今、稲木を活用 (川勝 厚司様) 第9位 新たな亀岡市旭町の名産物を願う「ぶどう」 (藤原 重治様) 第10位 令和2年度敬老記念 (第4位から第10位までの詳しい記事は旭町自治会ホームページをご覧ください)

こちら → <https://kameoka-asahi.com/hp-ranking-2022>

QRコード こちら →



主な行事予定



6月 4日 (日)	亀岡市消防団 旭分団	夏季訓練	
6月 25日 (日)	なごみの里あさひ	創業祭①	午前9時～
7月 2日 (日)	なごみの里あさひ	創業祭②	午前9時～
7月 下旬		納涼祭	(予定)

住民の居場所づくり ～コミュニケーションの場～

最近の新聞の投稿欄で『どの地域でも住民の居場所づくりを求める声が多い。しかし、現在の住宅事情では、平日に数人が集まれるような手軽な居場所を作るのは難しいのでしょうか?』という内容でした。その他に「地域の活性化を目的として子供から高齢者までの憩いの場を」という情報放映がなされているのも目にしたことがありました。そこで旭町はどうだろう?と考えてみました。各区にある公民館の活用状況を思い浮かべてみました。

- 1、総会・役員会の活用
- 2、有志でカラオケ（月2回）・サークル活動
- 3、老人会の交流の場

などなどさまざまなことには使われています。

ぶらりといって「あそこに行けば〇〇いやはる」とか

「ちょっと手が空いたし△△行けば、誰かいる」なんて場所は (美濃田区)



(杉区)

自由に利用できる公民館があれば、一つの憩いの場として楽しめるのになあと思いました。なかなかできないことかもしれませんが、この新聞記事や数々の情報番組を見ると、やはりみんなが住みやすい町にするためには、

少ないかもしれません。各区にある公民館は区民の方が行きやすい場所だと思うが、管理をするには難しいことが多くあるのかもしれない。しかし区民の方々にとっては一番立ち寄りやすい場所であるがゆえに、選挙などの投票場所ともなっているのかもしれないです。

週に一日でも公民館でおしゃべりする場や親子雑談、散歩の途中で寄り集まれる場、目的のない場でも誰もが



(山階区)



(印地区)

それぞれの地域の居場所づくりというものが大切なものだと思います。「旭町の高齢化」が進んでいる中で、身近な人同士がまずはコミュニケーションがとれる場所・気軽に集まれ、たわいのない話から生まれる行動が住みよい街づくりになるのかもしれない。

また、地域の居場所づくりは、地域の活性化や住みやすさの向上につながる重要な要素だと感じました。